



Face to Face

No.57
2020年12月

心臓手術で命を救え！手術環境を整え、現地医師が命をつなぐ ザンビア心臓血管外科技術移転事業

ザンビア大学付属教育病院 University Teaching Hospital(UTH)

UTHに心臓血管外科手術用資材を寄贈 水内大使に式典にご出席頂く

ザンビア大学教育病院(UTH)での心臓血管外科手術の技術移管プロジェクトの一環として、皆様からご寄付頂いたマスク 5593 枚と感染防止用のガウン 1770 枚、フェイスシールド 144 枚、人工心肺の回路と人工肺 4 セットを UTH に対して今回寄贈しました。その寄贈式典が 10 月 27 日に UTH にて開催され、コロナ禍で当日参加できない我々に代わり、水内龍太在ザンビア日本国大使に直々にご出席頂きスピーチを頂戴しました。式典にはアレックス・マクベ病院長をはじめとして多くの病院関係者が出席しました。地元の新聞には、ザンビアの人々のために今後も TICO では支援を継続してゆくという水内大使の力強いメッセージが、ますますザンビア国内でも重要となる心臓病治療を訴求するチタル・チルフヤ保健大臣からのメッセージと共に掲載されました。



2020年10月29日 Daily Mail 掲載記事



寄贈する水内大使 (大使のスピーチ全文は p2)

【報告】ザンビアの新型コロナ感染対策支援

6月18日から約1ヶ月、ザンビアの新型コロナ感染対策支援のお願いと題して、マスクと防護エプロン、そして物資購入資金&輸送費の寄附を募ったところ、以下の通り、多くの皆様のご協力をいただきました。

集計のご報告とともに、手作りして下さった皆様、遠方から送って下さった皆様、暑い中わざわざ届けて下さった皆様、地球の裏側に思いを馳せ、誰かのためにと行動して下さい一人ひとりの皆様に、心からの感謝をお伝えしたいです。ありがとうございました！

- 不織布マスク 6640 枚
- ガーゼマスク 745 枚
- 手作り布マスク 1115 枚
- 手作りエプロン (防護衣) 2189 着
- フェイスシールド 200 セット
- 寄附金 301,155 円

【Daily Mail 掲載記事 和訳】

心臓外科治療は必須 健康チェックで命を守る、チルフヤ保健大臣

ザンビアは、人口 1800 万人のうち約 5000 人の患者が心臓手術を必要とし、また 2000 人の子供たちも毎年心臓手術を必要としていて、世界的に心臓病の負担が最も大きい国の一つです。そして、心臓病と闘っている人々の命を救うためには、国内での心臓外科治療の発展が必要不可欠であると、火曜日に開催された、日本から寄贈されたザンビア大学教育病院 (UTH) への手術用品と COVID-19 感染予防の個人防護具の引き渡しの式典で、チタル・チルフヤ保健大臣は述べました。この中には、ガウン 1,770 着、フェイスシールド 144 枚、フェイスマスク 5,593 枚も含まれています。このメッセージは、保健省の臨床ケア・診断担当ディレクター、アレックス・マクベ氏が保健大臣に代わり代読したスピーチの中で読み上げられたものです。チルフヤ保健大臣は、データによると世界中で 100 万人のうち 300 人が毎年リウマチ性心疾患のために心臓手術を必要としていると説明し、高質な心臓外科治療なしでは、患者は自分の寿命を全うできないと述べました。また大臣は、心臓外科治療は、罹患率と死亡率を改善するための普遍的なケアを提供するために不可欠であると述べました。このために、政府は 2017 年以来、TICO との協力の下、心臓外科治療の発展において日本とパートナーシップを形成してきました。大臣は、TICO プログラムの下で、より多くの若い外科医が開胸手術を行うための訓練を受けていると述べ、保健省は公衆衛生システムの大規模な変革に乗り出していると説明しました。水内龍太 駐ザンビア日本大使は、今回の寄贈は TICO により行われたもので、日本政府としても過去 40 年にわたり UTH と協力してきたと述べました。TICO では長年にわたり、心臓外科手術の訓練のために日本の医療専門家をザンビアに派遣し、技術的な支援を行ってきています。水内大使は、「心臓血管外科の必要性がザンビアで着実に高まっていくことが予想される中、TICO はザンビアの人々が質の高い医療を受けられるように支援するという目標に向かって今後も活動を続けていく」と述べ、日本政府としても健康と教育の分野でザンビア政府と常に協力していくことを強調しました。

プロジェクトマネージャー(さくら診療所) 松村 武史

新型コロナウイルス感染拡大のための渡航中止勧告を受け、本年3月の第7回活動以後、活動を自粛しています。その間、ザンビアでは心疾患に特化した新病院の開院準備が進んでおり、心臓血管外科手術が本格的に始まるようとしています。活動が行えない中、TICO ではザンビアのコロナ対策を支援する目的で、寄付を募り集めたマスクや防護エプロン、消毒液や水洗場などを現地購入しザンビアの学校や医療機関に寄付を、私たちが活動する UTH には、それらと手術で使用する人工心肺回路と人工肺も寄付することが出来ました。ご支援、本当にありがとうございました。

私自身は、これからの活動自粛期間中、さくら診療所での業務に集中したいと思います。発熱時の診療が可能で、検査もでき、初期対応ができ、安全に受診ができる発熱者外来を設け、地域の方々が安心して日々を過ごせるように頑張りたいと思います。日本で新たな経験を積み、ザンビアでより良い活動を行えるよう努めて参ります。今後ともよろしくお願い致します。



8月下旬から通関手続きに入っていた感染防止用品が9月初旬にUTHに到着。松村先生自らも診療所にミシンを持ち込み診療の合間に縫ったマスクや作った防護服もたくさん。実はTICOに関係する医師も数名感染していたことが分かり、一同心を痛め早い到着を願っていました。ザンビアの医療関係者も命がけで市民の命を守っています。そのスタッフの方々に元氣と勇気を届けられたと思います。皆さん、ありがとうございます！

【水内龍太 駐ザンビア共和国日本国大使のスピーチ 和訳】

本日は西日本に拠点を置く日本のNPO法人TICOからの貴重な寄付品として、UTHでの心臓外科手術で使用するための「チューブ付きオキシゲナイザー」4セットを、主に医療従事者を新型コロナウイルスから守るためのマスク5,593枚、ガウン1,770枚、フェイスシールド144枚などの個人用保護具(PPE)とともに寄贈できることは大変光栄であります。

特にPPEについては2017年から実施されている両パートナー間の協力関係の象徴であるだけでなく、新型コロナウイルスのリスクに直面している医療従事者の連帯感の表れでもありと考えています。冒頭に、本日の寄贈式典を実現するために尽力して下さった日本側とザンビア側の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

日本のUTHとの関わりは、TICOによる連携にとどまらず、1978年に小児科病棟が建設された時まで遡り40年以上続いています。1989年から2000年にかけては、感染症対策能力の向上を目的とした技術協力プロジェクトが2期に分けて実施され、ウイルス研究所と結核研究所をそれぞれ新設しました。2009年には、最新の医療機器の導入により、小児科・婦人科、手術室、集中治療室を全面的に近代化し、医学生や専門家の臨床研修を充実させました。2012年には、「結核・トリパノソーマ症研究プロジェクト」の枠組みの中で、バイオセーフティレベル3の研究室が開設されました。2013年には、人々が適切な医療サービスを受けられるようにするために、ルサカの2つの保健センターを第一レベルの病院に改修するプロジェクトが開始され、最終的にUTHへの患者の紹介を20%削減することができました。今日、UTHはザンビアで最も先進的で本格的な第三次レベル病院として知られておりますが、日本及び日本国民が全面的に支えてまいりました。このようにしてUTHの心と魂に移植された日本人の遺伝子は、ザンビアの最高の医療機関の中核をなし、ザンビアの人々に貢献し、さらにザンビアの人々の命を救っていると言っても過言ではないでしょう。

これらにさらに、今回のTICOからの「チューブ付きオキシゲナイザー」の寄付が加わります。1993年に日本で国際的なNPOと

して設立されたTICOは、2017年からUTHの心臓外科チームの支援を開始しました。以来、ザンビアの医師が自ら心臓外科手術を行えるようになることを願い、UTHの心臓外科の能力強化に貢献してきました。直近では今年2月にザンビアに日本の医療専門家チームが訪問しサポートし、これまでに延べ16件の心臓外科手術を成功させています。

今日、私は皆さんに、TICOからのUTHへのメッセージ、特にAlex Makupe博士と彼の同僚たちへのメッセージをお伝えする光栄に浴しています。

ザンビアで心臓外科治療の必要性が着実に高まっていくことが予想される中、TICOは「ザンビア人の手でザンビアの医療サービスを」という目標に向かって活動を続けていきたいと考えています。心臓外科手術に使用されるチューブ付きオキシゲナイザーの寄贈は確実にそのプロセスを加速させます。こうして寄贈された物品が、UTHで患者さんの治療に役立てられることこそがTICOとしての切なる願いです。

駐ザンビア日本大使として、「ザンビアの医療サービスをザンビア人の手に」というTICOの呼びかけに賛同させていただきたいと思えます。これはザンビア経済の持続可能な発展の実現に向けて努力を続けている日本のザンビア支援の精神にも共鳴するものです。新型コロナウイルスのパンデミックが世界的な旅行を妨げ、また人と人の直接の協力をもさらに妨げているにもかかわらず、今回の様な協力が「ニューノーマル」に沿って行われてきたこと、そしてこれからも行われることを、私は嬉しく思います。ポストコロナ時代が間もなく到来し、日本の医師とザンビアの医師の間で、また科学者、学術関係者、多くの人々の間で、より密接な交流が行われ、新たな地平が開かれることを期待したいと思います。

以上、本日寄贈したチューブ付きオキシゲナイザーを通じてUTHの医療サービスが向上し、そして日本とUTHの実りある関係への更なる弾みとなることを祈念しております。ご清聴ありがとうございました。



新型コロナウイルス(COVID-19)対策事業

5つの小学校にコロナ感染予防のための物品を寄贈

コロナ禍でザンビア全土の学校は長い間休校となっていました。9月21日より全学年で授業が再開されました。これに先立ち、児童生徒の感染予防のために10miles近隣の4小学校（Moomba, Machaya, Muwanjuni, Shifwankula）及びNgombeのTICO Community Schoolへ、皆様からご寄付頂いた布製マスク2,300枚に加えて、足踏み式の手洗い機25台、殺菌剤、液体石鹸、非接触式体温計をTICOとして寄付しました。これら5つの小学校には合わせて約9,000名が在籍していますが、感染予防のための十分な物品がなく授業再開にあたりその対応に大変困窮していました。各校からはタイムリーな支援に感謝する旨のビデオやお手紙を頂き、地元の新聞にも日本からの心温まる支援として記事が掲載されました。

9,000 Chibombo pupils in hygiene kits

DARLINGTON MWENDABAI
CHIBOMBO

TO COMPLEMENT Government's effort in ensuring that schools are safe havens as they resume to non-examination classes today, Takashima International Cooperation Japan (TICO) has given five schools in Chibombo assorted hygiene kits to benefit about 9,000 pupils.

The assorted prevention materials are worth K93,415.

TICO representative Cheryl Phiri said the non-profit organisation has been supplementing Government's effort in the health and education sectors since 1993.

The five schools are Moomba, Machaya, Muwanjuni, Shifwankula and TICO Community School.

Ms Phiri said the donated items like face masks and foot operating hand-washers points will help fight the global pandemic, COVID-19, in the respective schools.

"The donations were funded by the Japanese donors and face masks were hand-made by the Japanese people."

"The hand-made face masks are priceless gifts. They are made with a lot of love to the Zambian children from the Japanese people," Ms Phiri said.

She said good hygiene practices should be embraced at a tender age.

Ms Phiri said children are good hygiene ambassadors who should be encouraged to embrace a culture of living in a clean environment.

She said children are the treasure and the future of Zambia who should take care of their hygiene by

following the prevention tips to fight COVID-19.

Ms Phiri also urged the pupils to study hard. She said living in a clean environment should be part of the Zambian culture and not accessory because of COVID-19.

Ms Phiri urged parents, guardians and the school authorities to always partner in promoting good hygiene practices.

TICO has also collaborated with Kwecheka Community Foundation (KCF) in Zambia to fight against coronavirus.

Over the years, TICO has been supporting cardiovascular surgery at University Teaching Hospitals (UTH) and various other activities to improve the welfare of citizens.

Muwanjuni head teacher Loretta Mumba said the gesture is timely.

Ms Mumba said the donation by TICO will go a long way in enhancing hygiene practices at the institution.

She said the school has about 1,000 pupils who are good hygiene ambassadors in the surrounding communities.

Ms Mumba said a clean environment contributes to a good pass rate because pupils are able to concentrate in class.

She said the hygiene kit will help manage the pupil population when non-examination classes resume.

Muwanjuni Parent Teacher Association chairperson Emmanuel Khondore said the donation will also benefit surrounding communities.

Mr Khondore urged parents and guardians to pay fees to enable the school management to operate effectively.



非接触体温計も使われています。学校再開に間に合い、現地の方々に非常に喜ばれました。特定非営利活動法人TICOのFacebookに感謝の動画などをたくさんアップしています。

Zimba Mission Hospital 三好先生より



皆さんご無沙汰しております。2016年よりザンビア南部のジンバミッション病院で働いている三好康広です。5年前TICOの吉田先生にザンビアに初めて連れてきていただいて、それからここまでザンビアにどっぷり関わることになるうとは正直思っておりませんでした。皆さんのご支援、お気遣いがなければ、ここまで活動を続けることは難しかったと思っています。心から感謝申し上げます。

2020年は私にとっても激動の年でした。コロナの影響で、ザンビアの田舎町で働く私の活動も大きく影響を受けました。3月の世界的な感染拡大に伴い、日本のNGOの駐在員やJICAのボランティアも全員日本への帰国を余儀なくされました。私はそうした組織に属していないこともあり、自分の判断で妻と共にザンビアにとどまることを決めました。これまでアフリカでの地域医療に関心のある多くの日本人学生、医療従事者を受け入れてきましたが、3月中旬以降の受け入れが全て中止になってしまいました。3月初旬から来ていた、私の母校長崎大学の学生さん達も、予定を早めて日本へ帰国することになってしまいました。

私の働くジンバでも7月に第一例の患者さんが出て以降、コロナの患者さんが散発しておりますが、幸いこれまで重症者/死者が出たり、大流行することなく経過しています。ジンバでのコロナ対策に関してはTICOから多大なる支援を受けました。N95マスク、医療用手袋、フェイスシールド、医療用ガウン、パルスオキシメーター、非接触体温計など多くのご寄付をいただきました。特に非接触体温計はこちらではなかなか手に入らないので、本当に助かっております。コロナ対策としてだけでなく、業務の効率化にも寄与しております。

ジンバではKOCEBUKAというザンビア人のNGOが活動していますが、TICOからそのNGOにも支援をいただいております。彼らはジンバの町の中心部だけでなく、僻地の村にまで足を運び、コロナの啓蒙活動を行っております。町に大きな看板を3つ設置し、村々には現地語でのポスターを配り、学校で子どもたちにもマスク着用の指導などを精力的に行っています。

私の妻も微力ながら、ザンビアの伝統的な布であるチテングを使ってマスクを作り、主にマザーシェルター(分娩待機所)で共同生活している妊婦さんに配布しております。

病院の中で私のような医療従事者ができることなんて限られていますが、国や地域のNGO、海外のNGO(TICO)などと協力しあいながら、この危機と向き合ってきましたし、今後も向き合っていきたいと思っています。



TICOからの寄付を受け取った院長



3月に実習に来た長崎大学の学生さん達と



チテングマスク(妻と私)

Agroforestry について

日本ではあまり聞きなれない言葉ですが、アフリカではかなり浸透しつつあります。

Agriculture + Forestry 直訳すると農林業ですが、ニュアンスがだいぶ違います。農業に有用な樹木を畑に混植して利用します。主に空気中の窒素を取り込む能力があるマメ科の木（アカシアなど）が植えられます。果物やナッツを植えるのもいいでしょう。

利点としては、土壌改良、高価な肥料を減らせる、保水力の改善、土壌浸食の軽減、強過ぎる日光を弱める、防風、葉を家畜の飼料にする、剪定し薪にする、

伐採し材木として利用する、蜜が取れる、などです。

よく植えられている「ムサンガ」という不思議な木は、農業に適した雨季に落葉し、乾季に葉を茂らせ、農作物の邪魔をせず土を豊かにしてくれます。「モリソング」は葉が栄養価が高く、パウダーを食用やお茶にして利用します。抗酸化力が非常に高いことが知られています。

ザンビアでは、毎年徳島県ほどの面積の森林が消失しているようです。雨量の減少で水力発電が機能せず停電が頻繁に起こることもあって、国民のほとんどが薪、炭を燃料にしています。プロバング

代表 吉田 修

スが少し普及し始めていますが、まだまだ高嶺の花です。

水源を守るため、気候変動を抑えるため、薪・炭を安定的に供給するために、木をどんどん植えなければなりません。しかし、商業的な植林はあまり進んでいません。土地の所有権が曖昧（チーフが決める）な上に、収益を上げるまでに20～30年かかる植林には貧農はなかなか乗れません。

Agroforestry は農民にとって、木を植える良いモチベーションになっているのかもしれない。

ご支援ありがとうございます

■会費納入者

山岡智互、峰尾武、山崎恵子、渡部豪・あかり、中谷加奈子、松田恵美子、篠原弘子、篠原幸隆、久保真一・恵子、田村 実、神園索己、大塚和子、大多和通夫、池見真由、和田快、ダスキン川島、池北洋子、柳崎義美、新野和枝、杉本尊史、饗場和彦・新田恭子、鈴木薫、福士美幸、福井照実、福井康雄、浮森和美、香西邦明、古川久美子、吉田修・益子、吉見千代、吉田純、峯裕恵、松田佳子、船津まさえ、中村純子、寺田由紀、寺口美香、田岡敬子、佐治朝子、佐古和雄・友美、津田道子、瀧浩樹、砂田 節子、田淵幸一郎・千夏、坂東正章、金納千晴、中西敬子、岩田祥三、松島拓、原田恵子、松田俊太郎、山本秀樹、古川彩香、大久保洋一、尾崎富

TICO の国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。2020年4月～年11月の期間に会費納入、ご寄付下さった方々です。（順不同、敬称略）

美子、町田美佳、井内一志、須藤榮子、垣原宏治、柏木英里子、石渡翔子、前川加奈美、藤田和佳子、山崎順子、平岡仁美、梯真由美、中村哲郎、金城由美子、福土庸二

■寄付者

美郷の湯、武岡サヨ子、佐藤佳孝、白石勝美・久代、小倉由喜子、原井和子、原田恵子、国際ソロプチミスト大坂・梅田、佐藤佳孝、藤本敏夫、吉田修、副島光江、大島晴子、片山ユリア、吉田純、肥後尚之、ナカガワトモコ、キムラリエ、麻植倫理法人会、船津 まさえ、高志小学校、宮崎卓也、神内絹代、大波美恵子、唐住洲子、近森憲助、松村正子、津嘉山郁子、西愛正、河村征子、上野尚子

TICO の活動を応援してください！

TICO の会員

会員となって資金面からも TICO の活動をサポートして下さる方を募集しています。会員の方には、TICO ニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

	賛助会員	正会員
年会費	個人 12,000 円 学生 6,000 円 団体 15,000 円	12,000 円 ※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。
ご入会方法	<p>■ホームページから</p> <p>1.ご入会フォームにお名前等をご入力ください。</p> <p>2.お支払い方法の選択</p> <p>クレジットカード継続決済とゆうちょ銀行自動引き落としのいずれかを選択し、手続きに進んでください。</p> <p>■インターネットをご利用でない方</p> <p>年会費を郵便局備え付けの郵便振替用紙で、次の口座へお支払い下さい。ご住所・ご氏名（フリガナ）・お電話番号を通信欄にお書き添下さい。</p> <p>口座番号 01640-6-37649 加入者名 TICO</p>	

ご寄付

皆様からのご寄付は、支援活動、団体の運営を継続するための大きな支えです。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

郵便振替	口座番号 01640-6-37649 加入者名 TICO
銀行振込	口座番号 楽天銀行 支店名 第一営業支店（支店番号251） 口座種類 普通 口座番号 7657541 口座名義 特定非営利活動法人 TICO ※カナ入力の場合は、(トクヒ) ティコ
クレジットカード	ホームページをご覧ください。
募金箱	さくら診療所（徳島県吉野川市）に常設しています。
インターネット	TICO ウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこからお買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください。
書き損じハガキ	ご自宅に年賀状の書き損じ、余り等ございましたら、是非事務局までお送りください。



特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川 120-4
電話：0883-42-2271（平日 9:00～17:00）
メール：info@tico.or.jp

ホームページ：www.tico.or.jp
フェイスブック：www.facebook.com/tico_hq
ブログ：blog.goo.ne.jp/tico_blog

